



令和7年5月1日



園長 免出 智美

おひさまだより

新緑の青葉にすがすがしさを感じる時期になりました。平均台やはしごを上ってジャンプをしたり、「虫、いるかなあ～？」とプランターの下や草むらの中の虫を探したりと夢中になって遊んでいます。

入園、進級して1か月が過ぎ、新しい環境や気候の変化での疲れが出てくる頃でもあります。ご家庭でも健康には十分に留意していただくようお願いします。子どもたちの体調・ストレスなどご心配なことがありましたらいつでもご相談ください。

5月行事予定			
月	日	曜	行 事 予 定
5	2	金	子どもの日の集い
	12	月	身体測定（乳児組） 内科健診
	13	火	身体測定（幼児組）
	15	木	全国一斉園庭開放
	21	水	園庭開放（未就園児）

※変更の場合あり
★お弁当の日：10日、24日

未就園児対象の園庭開放が始まります。お知り合いの方にもぜひお声掛けください。

園で目指す子どもの姿

「子どもの**主体性**を尊重し、自分で考える子どもを育む」

○自然の中でゆっくり育つ

自然の中で五感をフルに活用して実体験に、学ぶ時間を十分に保障する生活を大切にした保育活動をしていく。

○肯定的に導く

子どものありのままの姿を肯定的に認めていく。

○子どもの**主体性**を育む

子どもの気持ちが決まってから大人が援助していき子どもの自己決定を支えていく。

○危機意識

子ども自身が危険を察知して予知、回避する力をつけていくよう保育者が先回りして危険を全て取り除いていかないよう、失敗は最良の経験だと捉えて育ちを支えていく。

なぜ、遊びが大切なのでしょうか？

本来「遊び」と言うのは、子ども自身が主体的に何かに向き合うことです。誰かにさせられてするのではなく、子どもが「自らの意思でかかわってする。」ということに大きな意義があります。中でも乳幼児期の子どもは、身体感覚を通して物事を知るような

「遊び」の中でどんなことを身につけているの？

友達など人との関わり方を始め、身体を動かすことの喜び、自然の尊さ、何かを創造する力、想像したり感じたりする心、物事に取り組む意欲など、実際に様々なものを複合的に学びます。それらは、人間が生きていくうえでとても大切な力であり、人生を支える大切な基盤となるものです。好奇心を働かせて好きな遊びを楽しむ意欲や、より楽しもうと自ら工夫する力などが、結果的には学ぶ力に繋がります。この時期に大切なのはあらゆるもののが基盤になる、目には見えない「根っこ」の力を培う最も有意義な経験は豊かな「遊び」の経験です。

【引用・参考文献】大豆生田啓友著

「子育て悩み解決 100 のメッセージ」



ドキュメンテーションから抜粋（各クラスの1枚）

子どもは、遊びからたくさんのこと学んでいます。「何を感じ」「気付き」「理解できる」ようになるのか、「試す」「工夫する」「表現する」など学びに向かう力がドキュメンテーションに毎日記録されています。子どもたちの**豊かな感性やおもしろい発想、友だちへの思いやり、協同する力**をドキュメンテーションからみつけてください。



どんぐり（0歳児） 「気になる存在！！」

泣いている友だちに気付き、目を合わせようとしたり手に触れたりと興味を持って関わろうとする姿が見られます。「友だちがいたね」「気になるね」など気持ちを汲み取り言葉にしながら友だちの存在を伝えていくことで、友だちへの興味が広がっていきます。

たけのこ（1歳児） 「み～つけた！」

園庭の一角にある色とりどりのチューリップの花壇。チューリップを見つけると、近くまでいき、手で花びらに触れてみます。色や匂い、感触など、様々な五感を使いながら、身の回りにあるものに興味を持って関わります。



りす（2歳児） 「どろどろどうろ～」

山のふもとに水を流すと、それを道路に見立て自分が車になりきり遊んでいました。最初は走って水しぶきを楽しんでいましたが、ぐるぐると走る中でそれが道路になっていき、工事をしたり、道路を走ったりしていました。遊びの中でイメージを膨らませ普段の生活と繋げながら遊んでいます。



うさぎ（3歳児） 「木登り名人」

散歩先で登れそうな木を見つけると、腕や足、目線を使い登っていきます。上に登りたいという気持ちが意欲になり、登れそうな場所を見つけて足をかけ登っていきます。日々の運動遊びや一本橋で養われている力が活かされています。



そら（4歳児） 「竹の子VS人の子」

先週至る所に頭を出していた筍がどうなっているか興味津々の子ども達。たけのこが群生していた場所を「たけのこの世界」と呼び、ぶらり散歩が筍探しの大冒険となりました。自分達よりも大人よりも伸びて巨大になった筍に驚愕し、皮を剥いたら筍の下から竹がでてきたのに驚き、新発見に大興奮。巨大な筍に触れて、押して揺れるならばどうにか折れないかとみんなで力を合わせる姿はまさに竹の子対人の子の真剣勝負でした。



ひかり（5歳児）「かわいい桜ちゃん」

なかよし公園で拾ってきた桜を使って製作を楽しみました。紐を使って木を結んだり、桜をテープに貼ってみたりと、自然と触れ合う中で「桜の花びらってすぐ取れそう」「4つになったら四葉みたい！」「枝はすぐに動くな～」とたくさんの発見を楽しんでいます。自分の手の中ででき上っていくことで集中力や最後までやり切る力にも繋がっていきますね。

